

令和3年度学長教育助成制度 実施成果報告

パンデミック下でも実践力を強化できる 専門科目シミュレーション教育方法の開発

田中美央、佐藤由紀子、住吉智子

新潟大学医学部保健学科

背景

- 新型コロナウイルス感染症の流行の収束の目途は立っておらず、今後も対面型実習への影響が予測される。
- 多くの大学で、臨地実習の代替となる取り組みを実施しており、学修の質を維持することが課題。
- **臨地以外でのシミュレーション教育を組み合わせることで、学生の知識と技術の統合は、一定程度到達が可能**であることが報告されている。
- 一方、シミュレーションやロールプレイなどの教育方法の活用や地域住民の協力など、様々な**資源を活用するための、教員の教育力の向上・開発が課題**となっている。

• 期待される成果

1. 臨地での学修展開が困難な中での学修の質保証および向上を図る
2. 感染等による影響を受けない、新しい学修支援の在り方のモデルとして波及効果

小児看護学 実習目的

健康増進や成長発達の促進の観点から、子どもとその家族に必要な看護援助を実践できるための基礎的能力を修得する。

- ・ 3年次後期、必修 学生数80名、2単位（10日間）、第3・4ターム（8クール）

臨地病棟 × 対面

2019年度までの実習

- ・ 実習施設
小児病棟1か所（8日）
- ・ 1グループを1名の教員が担当



学内のみ × 対面

2020年度

- ・ 模擬事例2事例のシミュレーション
＋ディブリーフィング（7日間）
- ・ 教員3名＋非常勤2名



6クール：臨地病棟 × 非対面＋学内シミュレーション
2クール：完全非対面シミュレーション

2021年度

- ・ 感染拡大で実習方法を変更
シミュレーション＋ディブリーフィング＋**映像活用**
- ・ 指導教員3名＋非常勤2名

導入



シミュレーション(段階的に3場面)



	場面	目標
1 日目	導入: 初対面の場面	<ul style="list-style-type: none">・子どもの不安に配慮しながらコミュニケーションを行う・正しい方法で身長体重測定を実施できる
	場面1: 入院後の情報収集場面	<ul style="list-style-type: none">・ベッド周囲の観察と安全な環境づくりができる・母親へのインタビューの意図の説明と合意形成ができる・母親からの質問に対し学生の責任の範囲で対応し、看護師
	場面2: バイタルサイン測定	<ul style="list-style-type: none">・子どもの全身状態を観察アセスメントし、心身の苦痛を査定できる
2 日目	場面3: 内服後の支援 (プレパレーション第5段階)	<ul style="list-style-type: none">・ベッド周囲の観察と安全な環境づくりができる・子どもの全身状態を観察アセスメントし、心身の苦痛を査定できる・子どもへのPost procedure playと支持と探索ができる・母への共感と理解・承認を行い、内服支援の方法を検討できる

デブリーフィング＋映像



フェーズ	ゴール	アクション	時間
Gather 収集	学生の行動の背景にある視点を理解するために積極的に聴く	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような状況だったか語ってもらう ・メンバーに説明や追加情報を聞く 	3分
Analyze 分析	学習者の内省を導き、行動の分析を一緒に行う	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況を映像と音声で振り返る ・観察したことを言葉に出して発見・報告する ・良かった点と、改善したほうがよい点を一緒に解明する ・振り返りや再考を促す 	10～15分 1POINT 5分
Summarize 要約	学生の学びを整理し、次に判断できるようファシリテートする	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対してのPOINT、内容に不足がないか確認 ・資料を用いて、学習者の思考過程を整理する ・要約とまとめのコメント・学生の頑張りの具体的に伝え、楽しく、モチベーションにつながるようなフィードバック 	5分

結果

・回収数 56部 有効回答 56部 (有効回答率100%)

1) 能動的学習意欲

表1 能動的学習意欲体験高得点群 (5点以上) の割合

n = 56

	人数	%
目標への挑戦	46	82.1
肯定的感情	41	73.2
没入意識経験	34	60.7
能力への自信	31	55.4

2) 自己成長感

表3 自己成長感 (4点以上) の割合

n = 56

	人数	%
自己成長感	46	82.1

3) 学生の学びの記載 (一部抜粋)

実習では、実際に病室の雰囲気や動きが再現出来ていたところが良かったです。そのおかげで学生である私たちも、緊張感と使命感を持って臨むことができ、グループでの話し合いを通し学習を深めることが出来ました。

実践中は、子どもと母親に対しどうしたらいいか、常に考えながら向き合っていたので、振り返ったときに自分が子どもに対しどんな接し方のクセがあるのかや、不足している対応についてなど、自分の実力を知ることが出来る機会にもなりました。

座学の時点ではディストラクションやプレパレーションの効果に対して半信半疑な部分があったが、病棟での処置場面の見学や事例のロールプレイを通して、子どもの発達段階を理解していればディストラクションなどは大変有効であるということが印象的でした。

コロナによりいろいろな制限がある中、リアリティのある訪室のシミュレーションを行って学びを得ることができました。私たちが実習とおなじくらの学びを得ることができる環境を作ってくくださったことにとても感謝しています。

シミュレーション実習を終えての成果

緊張感の高い臨地の場を想定しているものの、学習の場として「安心して失敗できる環境での学び」は、学生の目標への挑戦意識や、学ぶ楽しさ、実践力強化につながったと推察.



卒業後に求められる統合的な学修分野や実践の重要な要素を獲得しながら、「しなやかな対応力」を修得するための教育的支援ツールになりうる

今後の展開

- 実験や実習、知識・技術・実践の統合領域での学修困難
- 複雑化する社会構造, 個人の権利や安全の重視, 新社会人や学生のストレス増大→卒業後の現場ニーズとの乖離



卒業後に求められる統合的な学修分野や実践の重要な要素を獲得しながら、「しなやかな対応力」を修得するための教育的支援ツールになりうる

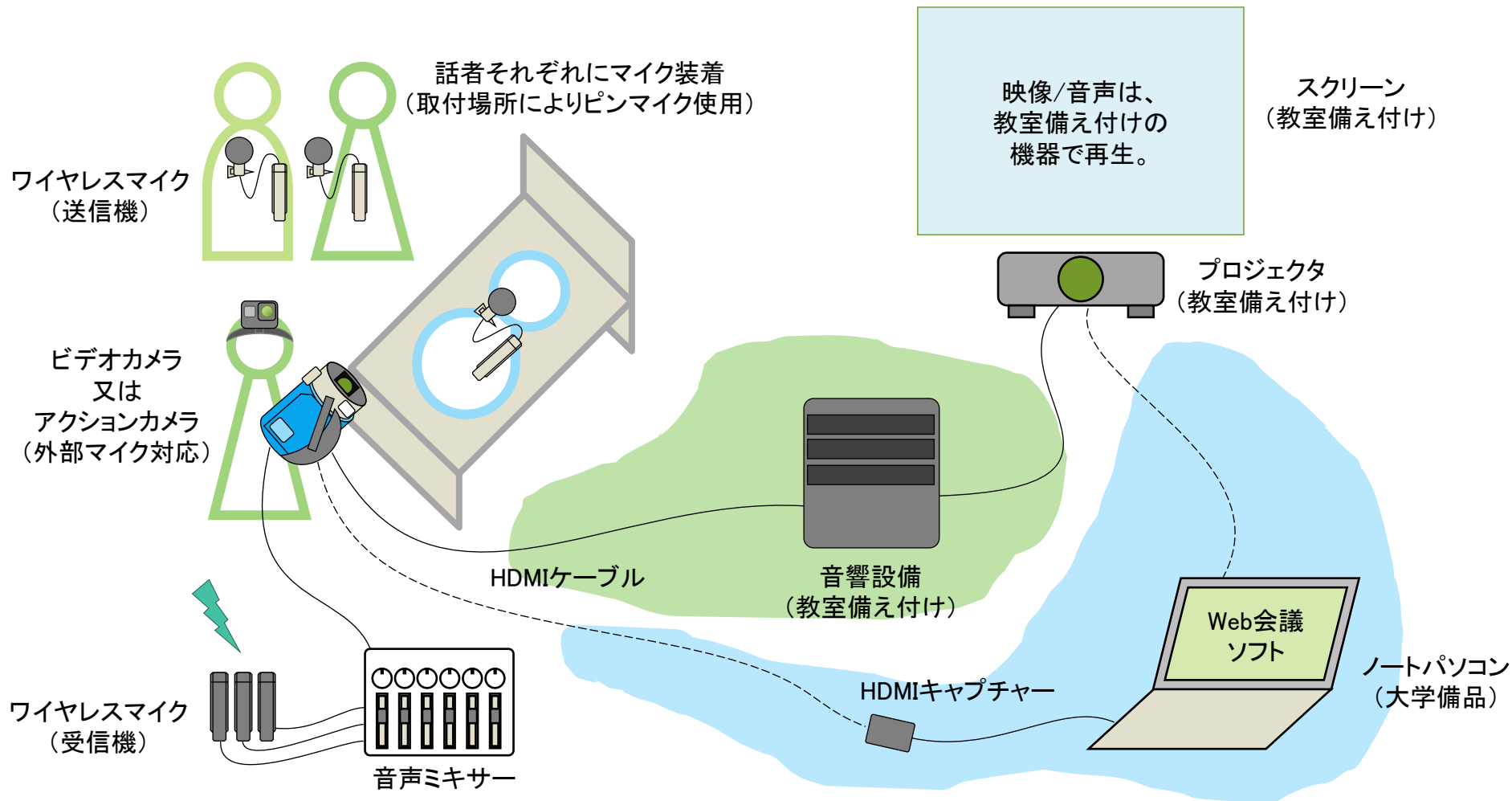
本プログラムのメリット

- ・複合的な状況で安全への準備性を高める学修
- ・プロセスを重視した課題の検討
- ・反復のトレーニングを経験できる点

汎用可能なプログラムモデルは、webで紹介しています→



市販機材を用いた実習 ~小児看護シミュレーションを例に



対面授業時

ビデオカメラを使って、その場で動画を録画/再生。
音声はワイヤレスマイクで拾い、ビデオカメラに入力。

リモート授業時

ビデオカメラの映像をWebカメラの代わりにして使用。
音声はワイヤレスマイクで拾い、でPCIに入力。